

各 位

三重県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予報第5号

	ページ
1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 気象のデータ	12
6. おしらせ	14

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネ(普通期)では、トビイロウンカの発生量は**多**と予想されます。早期発見・早期防除に努めてください。斑点米カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。周辺圃場の収穫状況に注意しながら、薬剤散布を行ってください。ツマグロヨコバイの発生量は**やや少**と予想されます。

ダイズでは、ハスモンヨトウの発生量は**やや多**と予想されます。白変葉が確認された場合には速やかに防除を行ってください。吸実性カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。今後の発生状況に注意して防除してください。

2) 果樹

カンキツではかいよう病(中晩柑)の発生量は**やや多**と予想されます。発病した夏秋梢や果実等の除去に努め、台風などの強風雨の前には防除を実施してください。黒点病、かいよう病(温州)、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、カメムシ類の発生量は**やや少**と予想されます。

3) 茶

チャでは、チャノホソガの発生時期は**やや早**、発生量は**やや多**、チャノミドリヒメヨコバイの発生量は**やや多**と予想されます。今後の発生状況に注意し防除を実施してください。クワシロカイガラムシの発生時期と発生量はともに**平年並**、炭疽病、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量はいずれも**平年並**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。圃場をよく観察し、早期発見、早期除去に努めて下さい。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**平年並**と予想されます。

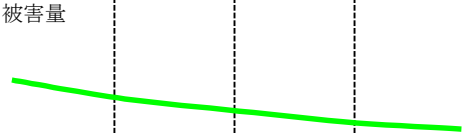
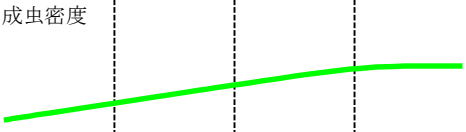
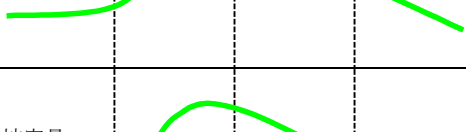
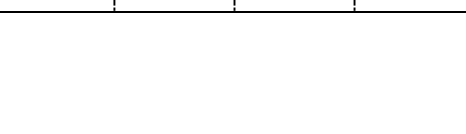
515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	中	普通	被害量 				1) 病害虫防除技術情報第9号(7月12日発表)。 2) 周辺で収穫作業がある時は圃場への侵入に注意し、穂揃い期に薬剤散布を実施してください。 3) 防除後も侵入が確認される場合は、穂揃い期防除の7~10日後に2回目の防除をしてください。 4) 薬剤散布する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してドリフトに注意してください。
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	中	低	成虫密度 				1) 発生量が少ないので、実害は少ないと思われます。
	トビイロウンカ	—	多	中~大	低	成虫密度 				1) 病害虫発生予察注意報第1号(7月1日発表) 2) 病害虫技術情報第11号(7月29日発表) 3) 発生が確認された場合には速やかに防除を行ってください。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	中	普通	被害量 				1) 病害虫防除技術情報第10号(7月21日発表)。 2) 圃場を見回り、白変葉を目印として、早期発見、早期防除に努めてください。 3) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
						8月	9月					
						下旬	上旬	中旬	下旬			
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。 2) 薬剤散布は、9月中旬(開花 20 日後・莢伸長期)と 10 月上旬(開花 40 日後・子実肥大中期)の 2 回散布が効果的です。 3) 1 回散布の場合は、9 月下旬頃(開花 30 日後・子実肥大初期)に散布してください。 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。 5) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。 	
	黒点病	—	平年並	中	普通	発病程度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9 月は後期感染の時期なので、果実への感染防止に努めてください。 	
	かいよう病	—	温州平年並	温州小 中晩柑 やや多	温州低 中晩柑 高	温州低	発病程度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) ミカンハモグリガの被害痕から菌が侵入しやすいため、高接樹や幼木はミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	ダニ密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1 葉当りの雌成虫寄生数が 0.5~1.0 頭程度を目安に防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用を避けてください。 	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判りにくくなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。 	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低		<ol style="list-style-type: none"> 1) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 2) 大雨、強風などの後に、急に圃場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等では、発生状況に十分に注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。 			
	炭疽病	—	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 防除時期は秋芽 1～2 葉開葉期です。 2) 三番茶期から秋番茶期にかけて増加します。 3) 降雨が続くと感染しやすくなります。降雨の前は予防剤で、降雨の後には治療剤で防除してください。 4) 治療剤 (EBI 剤など) は耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。 			
	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息しています。 2) 寄生葉率が高い場合は丁寧に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。 			
チャ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや早	やや多	小	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽開葉初期の孵化幼虫 (潜葉期、絵描き状態) を対象に防除してください。 2) 本年の発生時期は、平年よりやや早いと予想されます。病害虫防除所のホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。 3) ハマキムシ類の間接暴露による薬剤抵抗性の発達を避けるため、ジアシルヒドラジン系 IGR 剤 (虫 18)、ジアミド剤 (虫 28) の使用回数は最大年 1 回までとしましょう。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
						8月	9月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	—	やや多	中	普通	成虫誘殺数					<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽の先が褐変し、ひどいときは芽が硬化し発育停止します。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 秋芽の開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通	成虫誘殺数					<ol style="list-style-type: none"> 1) 萌芽期に被害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 秋芽の萌芽期～開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。
	クワシロカイガラムシ	平年並	平年並	小	普通			孵化幼虫密度			
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通	発病度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。 3) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 4) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通	成虫密度					<ol style="list-style-type: none"> 1) 幼虫の発生は8～10月に多くなります。 2) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2)予察灯(7月第4半旬～8月第3半旬・松阪市)では、水田位置でイネカメムシ誘殺数は27頭(平年8.9頭)と多、ミナミアオカメムシ誘殺数は22頭(平年17.6頭)とやや多、クモヘリカメムシの誘殺数は6頭と少(+) 3)巡回調査圃場(8月第1～2週・早期水稻)では、すくい取り調査による斑点米カメムシ類の発生圃場率は47.9%(平年42.5%)とやや多の傾向、虫数は3.5頭(平年1.9頭)とやや多の傾向(+) 4)一般圃場では、発生量はやや少～やや多(概してやや少)(-) <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、予察灯の誘殺数を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2)予察灯(7月第4半旬～8月第3半旬・松阪市)では、誘殺数は水田位置で0頭(平年3.1頭)と少(-) 3)巡回調査圃場(8月第1～2週)では、払い落とし調査による発生圃場率は40.3%(平年35.7%)とやや多の傾向、成幼虫数は3.4頭(平年3.5頭)と平年並み(+) 4)一般圃場では、発生量は少～やや少(概して少)(-) <p>考察: 現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	トビイロウンカ	—	多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2)予察灯(7月第4半旬～8月第3半旬)の誘殺数は松阪市の水田位置で2頭(平年1.3頭)とやや多、伊賀市で19頭(平年2.8頭)と多(+) 3)巡回調査圃場(8月第1～2週)では、発生圃場率0%(平年0%)、払い落とし成虫数0頭(平年0頭)とともに平年並に少(±) 4)一般圃場では、発生量は少(-) 5)飛来は例年より早く、近県でも広い範囲で飛来が確認されており、注意報が発表されている。(+) <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、予察灯、飛来時期、近県の状況から予想発生量は多と考えます。</p>
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2)フェロモントラップ(7月第2半旬～8月第4半旬)では、松阪市嬉野川北町で1176頭(平年546頭)と多(+) 3)巡回調査圃場(8月第1～2週)では、葉食害度1.1(平年0.2)と多、白変か所数0.5か所/a(平年0.4か所/a)と平年並(±) 4)一般圃場では、発生量は無～平年並(概して少)(-) <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 予察灯(7月第4半旬～8月第3半旬・松阪市)では、畑位置でミナミアオカメムシ106頭(平年59.9頭)と多、イチモンジカメムシ33頭(平年42.5頭)とやや少、ホソヘリカメムシ34頭(平年39.1頭)と平年並(±) 3) 大豆巡回調査圃場(8月第1～2週)では、25株当り寄生虫数0頭(平年0.004頭)とやや少(—) 4) 水稲巡回調査圃場(8月第1～2週)では、ミナミアオカメムシ発生圃場率3.8%(平年1.9%)と多、すくい取り虫数0.06頭(平年0.04頭)と多(+) 5) 一般圃場では、発生量は、無～少(概して少)(—) <p>考察:ミナミアオカメムシの発生状況を重視して現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	黒点病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃(8月上旬、無防除)では、果実発病度64.8(平年62.0)とやや多(+) 3) 巡回調査圃場(8月第1～2週)では、果実発病度0.2(平年3.2)と少(—) 4) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並(概して平年並)(±) 5) 感染源となる枯枝の量は平年並(±) <p>考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃(8月上旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率2.6%(平年2.8%)と平年並、発病果率25.0%(平年16.5%)とやや多(+) 3) 巡回調査圃場(8月第1～2週)のうち、温州みかんでは春葉発病度0(平年0.05)と平年並の傾向、果実発病度0(平年0.006)と平年並(±) 4) 巡回調査圃場(8月第1～2週)のうち、中晩柑では春葉発病度2.6(平年2.4)と平年並、果実発病度1.9(平年2.5)とやや少(±) 5) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多(概してやや多)(+) <p>考察:温州みかんの現状の発生量は、平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類の現状の発生量は、一般圃場を重視してやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 県予察圃(8月上旬)では、100葉当り寄生頭数は慣行防除区で0頭(平年16.4頭)と少 (-) 3) 県予察圃(8月上旬)では、100葉当り寄生頭数は無防除区で2.2頭(平年5.2頭)と少 (-) 3) 巡回調査圃場(8月第1~2週)では、春葉における寄生葉率8.9%(平年4.3%)とやや多の傾向、寄生虫数1.56頭/葉(平年0.16頭/葉)と多 (+) 4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-) <p>考察: 一般圃場を考慮し、現在の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象状況を考慮し発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 県予察圃黄色粘着トラップ(8月上旬、無防除)では、誘殺数7.0頭/日(平年10.0頭)とやや少 (-) 3) 県予察圃(8月上旬、無防除)では、100果当り寄生虫数1.7頭(平年5.6頭)と少 (-) 4) 巡回調査圃場(8月第1~2週)では、被害果率1.2%(平年0.6%)とやや多の傾向 (+) 5) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±) <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想 (+) 2) 予察灯(御浜町:8月上旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ177頭(平年841.1頭)とやや少、ツヤアオカメムシ19頭(平年18.3頭)とやや多の傾向 (±) 3) 予察灯(松阪市:7月第3半旬~8月第2半旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ43頭(平年943.7頭)とやや少の傾向、ツヤアオカメムシ8頭(平年119.7頭)と平年並の傾向 (-) 4) フェロモントラップ(7月第3週~8月第2週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で27.5頭(平年1027.9頭)とやや少の傾向、中間地(津市白山町二本木)で30.5頭(平年1740.9頭)とやや少の傾向、平坦地(松阪市嬉野川北町)で2.0頭(平年475.1頭)とやや少の傾向 (-) 5) 一般圃場では、発生量は少 (-) <p>考察: 現在の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2 8月中旬のアメダスポイント津の降雨日数は9日、降水量は193mm(+) 3 県予察圃では、二番茶期の病葉数0枚/m²(9年平均0.54枚/m²)と平年並に少の傾向(-) 4 巡回調査圃場(8月第1~2週)では、発病葉数0.1枚/m²(平年1.2枚/m²)と少(-) 5 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察: 現在の発生量はやや少と考えられるが、気象の状況を考慮し予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2 県予察圃(7月中旬~8月上旬)では、寄生葉率5.0%(平年7.0%)とやや少、寄生頭数0.21頭/葉(平年0.17頭/葉)と平年並(±) 3 巡回調査圃場(8月第1~2週)では、寄生葉率3.1%(平年0.9%)と多、寄生頭数0.09頭/葉(平年0.02頭/葉)と多(+) 4 一般圃場では、発生量は少(-) <p>考察: 現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや早	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2 県予察圃では、第2世代成虫のフェロモントラップ誘殺ピークは7月第2半旬(平年7月第3.2半旬)とやや早(発生時期-) 3 県予察圃フェロモントラップ(7月第3半旬~8月第2半旬)では、誘殺数1,373頭(平年1,188頭)とやや多(+) 4 巡回調査圃場(8月第1~2週)では、巻葉数2.83枚/m²(平年0.60枚/m²)と多(+) 5 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察: 発生時期はやや早、現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノミドリヒメコバイ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2 県予察圃黄色粘着トラップ(7月第3半旬~8月第2半旬)では、捕殺数32.5頭(8年平均45.9頭)と平年並の傾向(±) 3 巡回調査圃場(8月第1~2週)では、叩き落とし虫数1.9頭(平年1.4頭)と多(+) 4 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃黄色粘着トラップ(7月第3半旬～8月第2半旬)では、捕殺数996頭(8年平均824頭)とやや多の傾向(+) 3) 巡回調査圃場(8月第1～2週)では、叩き落とし虫数0.6頭(平年7.4頭)と少(-) 4) 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	平年並	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃場(亀山市)の第2世代幼虫孵化最盛日は7月16日(平年7月16日)と平年並(発生時期±) 3) 巡回調査圃場(8月第1～2週)では、雄繭寄生株率22.2%(平年7.0%)と多、雌成虫寄生株率15.4%(平年7.6%)と多(+) 4) 一般圃場では、発生量は平年並(±) <p>考察：第2世代幼虫孵化最盛期から、予想発生時期は平年並と考えます。現状の発生量は一般圃場の状況を重視して平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	炭疽病	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 8月中旬のアメダスポイント津の降雨日数は9日、降水量は193mm(+) 3) 巡回調査圃場(8月第1週、育苗床)では、発病株率0.2%(平年0.4%)と平年並の傾向(±) 4) 一般圃場では、やや少～やや多(概して平年並)(±) <p>考察：現状の発生量は平年並と考えられるが、気象の状況を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(8月19日発表)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並の予想(±) 2) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市:7月第3半旬～8月第2半旬)では、誘殺数は80頭(平年58.0頭)とやや多(+) 3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、青ネギの被害株率0%(平年0.4%)と少(-) 4) 一般圃場では、少～平年並(概してやや少)(-) <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、フェロモントラップの状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

東海地方1か月予報(令和3年8月19日名古屋地方気象台発表)

暖かい空気が流れ込みやすい時期があるため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。

降水量と日照時間はともに平年並でしょう。

1週目 8月21日～27日	平年と同様に晴れの日が多くなりますが、期間のはじめは湿った空気の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。
2週目 8月28日～9月3日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
3～4週目 9月4日～17日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東海地方週間天気予報(令和3年8月23日10時35分名古屋地方気象台発表)

予報期間 8月24日～8月30日

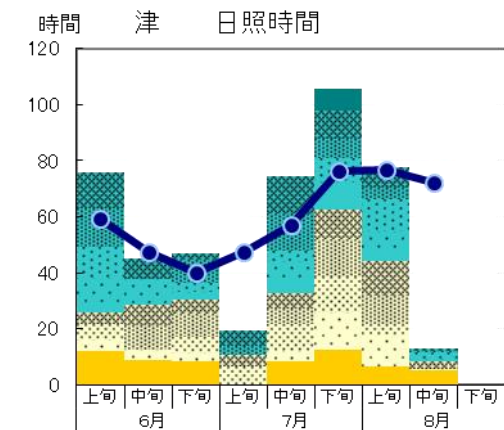
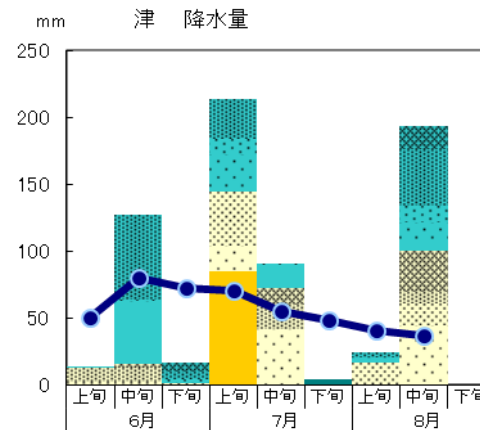
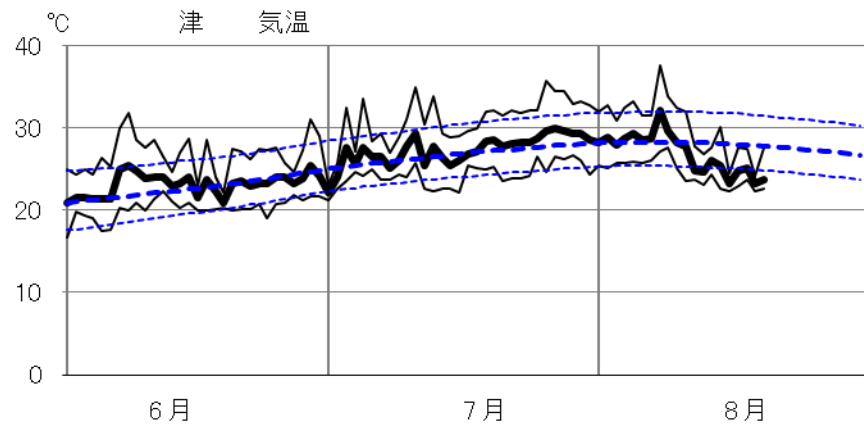
向こう一週間は、期間のはじめは気圧の谷や湿った空気の影響で雲が広がりやすく雨の降る所もありますが、その後は高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。

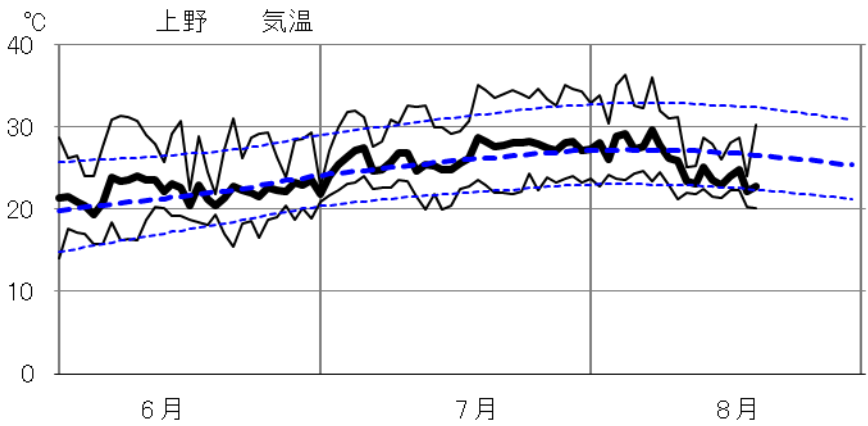
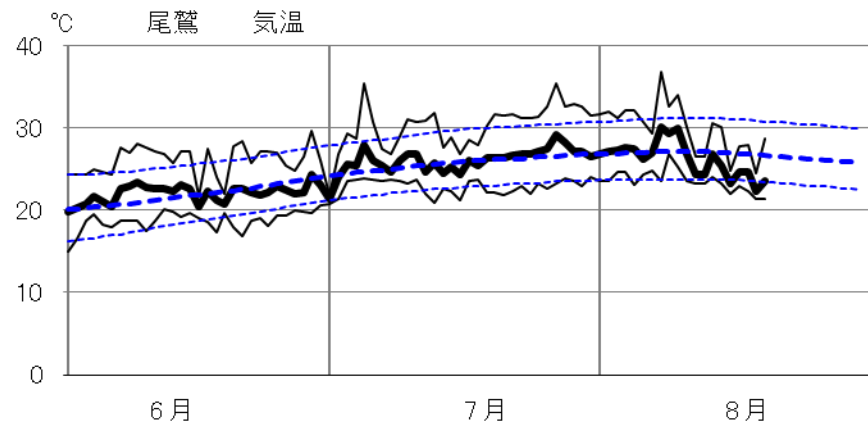
最高気温は、平年並か平年より高く、平年よりかなり高い所もある見込みです。

最低気温は、平年並か平年より高いでしょう。

降水量は、平年並か平年より少ない見込みです。

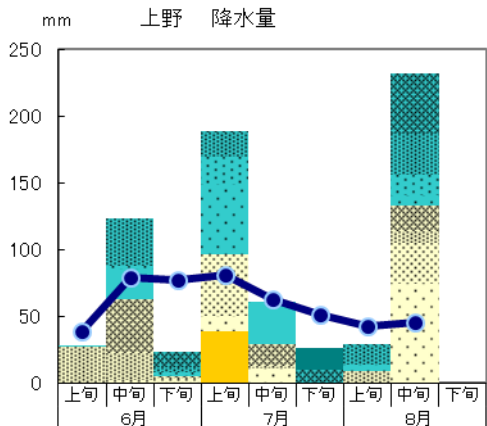
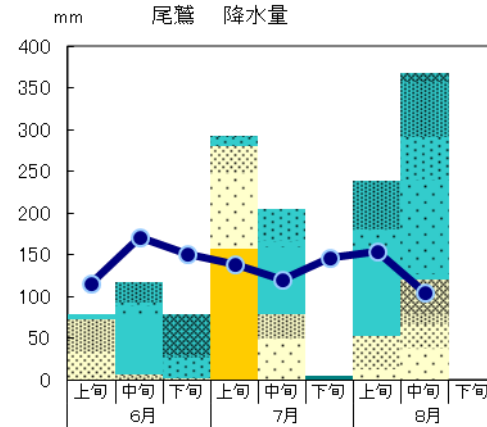
気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8月20日まで)





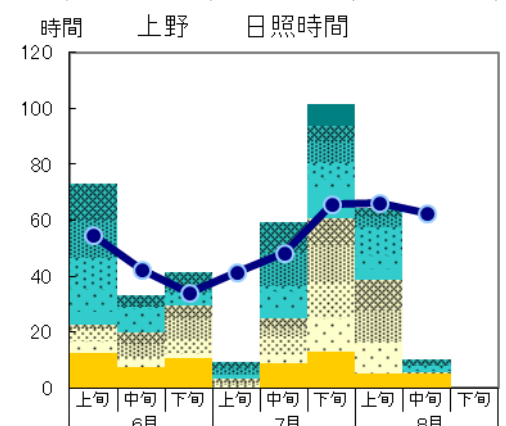
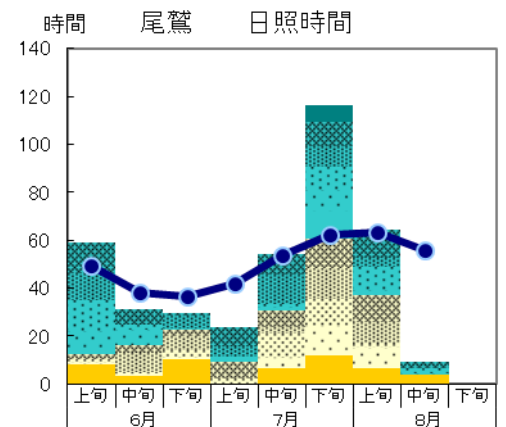
凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値



凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

県病害虫防除所

6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|------------------|------------------|
| 第1回 4月22日(木)(済み) | 第2回 5月20日(木)(済み) |
| 第3回 6月24日(木)(済み) | 第4回 7月20日(火)(済み) |
| 第5回 8月26日(木)(今回) | 第6回 10月21日(木) |
| 第7回 3月24日(木) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアド

レスからお入りください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000835764.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/mie>

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産園芸課ホームページ内

<http://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>